

「エル・シャダイ」

～母の胸に～

創世記17：1～11

イザヤ66：6～14

人は記念日を作ります。それは何のためでしょうか。現状から別の状況へ変化する事が目的です。結婚記念日や誕生日など記念とする日はたくさんあります。聖書に出てくる初めての記念日は天地創造した中で、7日目をお休みされた日、これが主を礼拝する日として記念とされました。今は週の初めである日曜日に礼拝をしていますが、当初は7日目に休み、次の週の備えをする日でした。この日はリフレッシュして気持ちを新たにすることがあります。私たちも今は日曜日ですが、教会に来ています。ここで心をリフレッシュし、現状とは別の状況へ変化したいのです。なぜリフレッシュが必要か、それは私たちが現実目を見ていて、非日常である神との関係が疎遠になっていき、気づかないといけない事が気づけない状態になってしまわないためです。ですから教会に来て、リフレッシュし変化していきましょう。タイトルにもありますが、「エル・シャダイ」とは全能の神を意味していますが、それぞれの言葉の意味はどのようにでしょうか。「エル」＝「力強い」。「シャダイ」＝「女性の胸」。この2つの言葉によって全能の神のイメージを変えたいのです。神のイメージが恐怖や罰を与えるや何かを強制する等のようになっていませんか。このイメージを取り去りましょう。泣き叫んでいてる赤ちゃんに母親がおっぱいをあげると安心するように神は母のような優しさを持って私たちを包んで下さいます。それを踏まえて今日の聖書箇所を見ていきます。信仰の父として知られるアブラハムはこの母的な姿を通して、神を信じていこうと思いました。アブラハムは神に「あなたの子孫は海の砂のようになる」と約束されていましたが99歳の時にまだ子供がいませんでした。そのためにアブラハムが自信を失っていたときに「私はエル・シャダイの神である。あなたが子孫を残す能力がないことを知っているが、それでもする」と言われ神に愛されていることを知ったのです。だからこそその後得た、息子のイサクをいけにえにささげると言われたときにも、従うことができたのです。神は母の姿とどぶらせて、あなたに神の愛を伝えます。母から愛を受けた人は自分の子供に愛を流せるようになります。そして子供は母から何かをしてもらうことで愛されていることを知るので、神は約束をした事は必ず成されます。神に愛されている事を感じていたアブラハムはその約束を信じました。この様に神は母親が子供を抱くような優しい愛で包んでくれます。だからこそ**①私たちは信じるべき！！約束を果たす神である事を！！**母親はいつまでも経っても子供の味方であるように、神はいつも私たちを見ていて、約束を果たそうとしてくれます。**②私たちは捨てるべき！！自分を覆うものを！！**神はアブラハムの約束の中で、割礼をするように言っています。割礼とは男性の包皮を切り捨てる事。これは生きてきた中で自分を覆っている全てのものを取り除く事を意味していました。子供のころは覆いなんてありませんでしたが大人になるにつれて覆いがかかってくるのです。アブラハムにも「自分は99才だから子供なんか無理」という大きな覆いがありました。彼には自分の考え、常識、プライドがいっぱいでした。しかしそんなのどうでもいいのです。私たちが長く生きて得たのは「これは〇〇というものだ」といった常識だけです。そしてそれは年を重ねるたびに自分を守るためにそうなります。しかしそれでは非現実で生きている神様とは価値観が合いません。常識を切り取りましょう。私たちはある特別なことが起きないと当たり前前に気づきませんが、あなたの考え方を1つ変えるだけで見えてきます。神様のことも、あなたの当たり前で見てみると気づきません。神様の姿を決めつけなさい。神様の「母なる愛」に気づけなければ、「父なる愛」には気づきません。人生は覆いが取られた瞬間に変わります。信じるためには覆いが取れていないと信じられません。あなたの概念を取っ払いましょう。**③あなたは愛すべき！！あなたの家族(教会)を！！**アブラハムは家族を愛していました。私たちは愛に気づいて初めて愛が流れます。そしてその愛を伝えてくれるのが教会なのです。教会は神を信じる者の集まりです。私たちは愛されたように愛する事ができます。神からの愛を受けたのであれば、周りの人々を愛する事ができます。教会とは形ではなく、教会に集まる一人ひとりの事。教会にはいろいろな人が集まります。それはいろいろな人から愛されている事を理解するためです「2人3人我が名によって集まる所に」それが教会です。「私は岩の上に・・・」石(自分)だけだと踏みつけられて粉々になってしまうが、寄せ集められれば岩盤となり、ちょっとしたことで壊れなくなります。この岩盤が教会なのです。「愛があれば結び合わされ」だから教会は愛を確かめ合う場所なのです。価値観が違う人たちが集うのも、それぞれの人から愛され、そこから神の姿を見出すためです。日曜日、こうして集うことは私たちが日常から離れるためにとっても大切なことです。今あなたに与えられている家族も神が召し集めたのです。偶然ではなく、意味があって一つの家族となっているのです。ですから今日からあなたの持っている家庭像も取っ払って下さい。私たちは一人では何もできないのです。だからこそあなたも子供のように自分に今ある覆いを取り、神の約束を信じ、あなたの隣人を愛して下さい。愛し合うことでお互いの存在価値に気づけるはず。神様はあなたを愛しています。あなたの覆いを取り、あなたがまず神を愛して、その愛に気づいていきましょう。